

市長定例記者会見（令和5年6月9日）録

11時30分～12時11分

題材に入ります前に、高松まつりの花火大会につきまして、一言申しあげたいと思います。

先月29日に高松まつり振興会の役員会で8月13日（日）高松まつりの花火大会を開催するということが役員会で承認されました。

今年は花火大会できるということでございまして、まずは、決定をいただきました皆様の御尽力に、心から感謝を申し上げたいと存じます。

去年は、コロナ感染の第7波が猛威を振るっていた時でございまして、ただどうにか市民の皆様が元気を取り戻していただき、高松に、にぎわいと活気を取り戻す契機にしたいという思いで、花火大会はできませんでしたが、それ以外の高松まつりを開催するということにしたところでございます。

市民の皆様からはまつりの開催によって、「観客の笑顔が力になった。感謝の気持ちを込めて踊った」とか、「コロナで沈んだ気分が晴れた。活気が戻って良かった」「思い出に残るまつりになった」など、まつりの復活を喜ぶ多くの声をいただいたところでございます。

私も皆様と一緒に、「正調一合まいた」の輪踊りを踊りましたけれども、皆さんの楽しそうな笑顔を見まして、開催して良かったなという思いでございました。

ただ、花火大会は、コロナの感染拡大の状況を踏まえまして、安全面を考慮し、中止をせざるを得なかったということでございます。去年は市民を始め、多くの皆さまから、花火大会の復活を望む、多くの声いただいておったところでございます。

どうにか今年はなんとか花火大会をとという思いはあったわけでございますので、結果的に5年ぶりに開催できるということ、本当に喜ばしく思っておるところでございます。

今年の花火大会は、観客の皆さまの安全を最優先する中での実施をしなければならないということでございまして、打上時間をだいぶ短縮して10分程度ということになりまして、打ち上げの花火の数も3,000発ということで、例年よりかなり規模を縮小せざるを得ないということでございます。ただ、規模は短縮

いたしますけれども、終始、従来の花火大会のクライマックスが続くような、そういう形での華やかな大会にしたいと、時間は短くても華やかなものにしたいということでございますので、準備を進めてまいって思い出に残る花火大会になるように準備を進めてまいりたいと考えているところでございます。

それでは、題材に入らせていただきます。

スライドの方を見ていただきたいと思います、今日は、3件でございます。

「令和5年度芸術士インターンシップ生の募集」について、「たかまつマインクラフトまちなみデザインコンテストの開催」、「サミット給食の実施に伴う学校訪問」について、この3点でございます。

まずはじめに、「芸術士インターンシップ生の募集」でございます。本市では、市内の保育所や幼稚園などにアーティストを派遣して、子どもたちに芸術と触れる機会を提供する「芸術士派遣事業」を実施をいたしております。

この事業につきましては、昨年の「たかまつ政策アイデアコンテスト」で、芸術士派遣事業においてインターンシップを実施してはどうかとの、提案がございまして、それを、本市の事業として実施をしようというものでございます。

この事業によりまして、インターンシップ生に、芸術士の活動や魅力を知ってもらい、今後、本市で芸術士として活動するきっかけを作っていただくと共に、その先の移住定住の促進にもできればつなげていきたいというものでございます。

対象は、子どもたちとの芸術活動に興味がある、芸術系や保育・幼児教育系の学部の大学生で、活動内容は、8月と9月の2回、各3日間になっております。講習と現場実習を組み合わせたものとなっております。

定員は、両日程とも、3名といたしております。募集期間は、本日（6月9日）から30日までで、本市ホームページで申し込みを受け付けております。多くの学生の皆様の、ご応募をご期待したいと思います。

続いては、「たかまつマインクラフトまちなみデザインコンテスト」の開催についてでございます。

このコンテストは、既にご承知かと思いますが、インターネット上の仮想空間

「メタバース」を活用いたしまして、子どもたちに未来の高松を描いてもらうというものでございます。

今回、3Dブロックで構成されたメタバースの世界で、物作りや冒険を楽しむゲーム「マイクラフト」の中に、サンポートエリアを再現をいたすものでございます。

マイクラフトは、教育分野でも使用され、世界中で大人気のゲームということで聞いております。現在、マップは作成中でございますが、本日は、完成している部分について、少しご覧いただきたいと思っております。右手の大きなモニターを、ご覧いただきたいと思っております。

**【駅前広場 ➡ シンボルタワー ➡ フェリー乗り場 ➡ 玉藻公園】**

このような形で未来の高松のサンポート、海沿いのまちづくりをいうものをいろんなアイデアを使っていただいて応募いただきたいというものでございます。コンテストのスケジュールでございますが、7月23日（日）から作品の募集を開始いたします。また、23日には、オープニングイベントをJR高松駅前広場で開催いたします。完成した「マイクラフト」の中のサンポートエリアをその場で大画面でご覧いただく予定になっております。詳細につきましては、決まり次第、お知らせいたします。

募集の締め切りは、マイクラフトのプログラミングに相当な時間がかかるようございまして、10月31日（火）ということにしております。最終的な審査結果、表彰式が11月25日（土）を予定いたしております。

応募方法など、詳しくは別添の資料のとおりでございますので、見ていただきたいと思っております。本日から市のホームページ内で、デザインコンテストの特設サイトを開設いたします。詳細は、こちらをご覧ください。

私としましては、このデザインコンテストを通じまして、国内外にサンポートエリアの魅力を発信するとともに、市民のまちづくりへの参画、またシビックプライドの醸成、デジタル人材の育成など、様々な分野への波及効果を期待しているところでございます。しっかりと成功させる事業としていきたいと思っております。

最後3つ目も、G7関連でございますが、私と教育長が小学校を訪問し、児童らとともにサミット給食を楽しむ、体験いたします。

本市では、今月6日から、子どもたちに、サミットへの興味を持ってもらうと同時に、G7各国を身近に感じてもらうため、市立の全69の小・中学校（小47校・中22校）で、参加7カ国の家庭料理や、代表的な食材を使った16種類の献立を取り入れた「サミット給食」を実施しております。

このうち、6月14日（水）には、私と教育長が、木太南小学校を訪問いたしまして、子どもたちと一緒に、サミット給食を楽しみたいと思います。

木太南小学校の献立としては、ドイツの家庭料理の一つ「アイントプフ」といったスープや、フランスのニンジンを使った「キャロットラペ」のほか、イギリスの「紅茶ゼリー」、カナダの「メープルシロップ」が献立になっているようです。

サミット給食の献立など、スケジュールにつきましては、別紙のとおりでございます。

また、給食の時間に、校内放送や教室の電子黒板を利用して、献立に登場する参加国の料理などを紹介しながら、それぞれの国の良さを発見できるように工夫しております。

ぜひ、子どもたちに、このサミット給食を通じて、楽しみながら、G7各国、外国の文化に触れていただきたいというふうに考えているものでございます。

#### 【記者質問】

#### 【記者】

マイナンバーカードに他人名義の公金受取口座がひも付けられるトラブルがあったが、それに対する受け止めと今後の対策は

#### 【市長】

今お話しございましたように、本市におきましても、すでにご報告しておりますけれども、マイナンバーカードと公金受取口座をひも付ける手続きで、誤って他人名義の口座が登録される事例が、2件確認されたところでございます。

市民の皆様には、御心配と御迷惑をおかけいたしましたこと、改めて、お詫びを詫び申しあげたいと存じます。信頼回復に向けて、今後とも、支援窓口での確認作業を、一つ一つ確実にしながら、引き続き適切な支援ができるよう努めてまいりたいと思っております。

また、再発防止策といたしましては、マイナポータルログアウト処理の確認を徹底するようにしておりますけれども、改めて、マイナポイントの登録手続きを支援する窓口運営を担う委託業者に対しまして、国が示しておりますマイナポイント申込支援マニュアルの遵守といったこと、また支援窓口で誤登録を起こさないための手順の徹底といったことを指示させていただいたところでございます。

全国的にマイナンバーカードを巡り、トラブルが相次いでおるところでございます。

市民の皆様には、お手数ではございますが、念のためということもあって、ご自身のマイナポイントの申込状況や、公金受取口座の登録状況の確認を、今一度、お願いいたしたいと存じます。

確認方法につきましては、マイナカードの取得者向けサイト「マイナポータル」から確認していただけますし、本市の支援窓口でも確認のお手伝いといったこともできますので、ご相談いただけたらと思います。

万が一、登録状況に誤りが確認された場合は、すぐに本市のデジタル戦略課（839-2172）やマイナンバー総合フリーダイヤル（0120-95-0178）に、御連絡をお願いいたします。

**【記者】**

**【たかまつマイクラフトまちなみデザインコンテスト】**

市長も実際にマイクラフトを動かしてみたのか

**【市長】**

私はですね、あまりゲーム得意ではないので、コントローラーをもらって、前に進んだり、後ろに進んだり、あるいは視線を変えたりして、そのくらいの動かしはしましたけど、実際にどこへ行って、きちっと行って探索してどうなってい

るかというまでの複雑な動きまではまだできておりません。

【記者】

【たかまつマイクラフトまちなみデザインコンテスト】

マイクラフトで再現されたサンポートエリアの感想は

【市長】

これ1つ1つブロックを積み上げて作るんですよね、それがこれだけ現実に充実に再現されているということに少しびっくりしたのと、別の世界がコンピューターの中で再現されているということでございまして、非常に電子化の進歩を感じているところでございます。

子どもたちが夢中になって世界中で体験されているということなんですね。デジタルネイティブの世代と我々の世代ではちょっと違うかなという気はいたしますけれども、こういうことによっていろんな物事を進めていくきっかけにもなるというふうに思っておりますので、今回のコンテスト大いに期待をしているところでございます。

【記者】

後ろに映ってますが、すごいですね。

【市長】

すごいですね。これ1個1個ブロックを重ねて積み上げておりますので、これシンボルタワーですね。これは昼間の情景ですけど、例えばこれを夜の情景にもできるんですね。

こういうふうに夜にして、星が輝いて、空の位置関係とかも確認できるということでございまして、非常にまちづくりの将来のサンポートを考えていく上で、実際仕事の上でも参考になるのではないかなと期待しています。

【記者】

【たかまつマイクラフトまちなみデザインコンテスト】

今後の見通しについて

【市長】

子どもたちがIT関係、デジタル関係に慣れ親しむということで人材育成みたいなものにもできるでしょうし、自分たちの将来のまちづくりを自分たちで考えるということで、いわゆるシビックプライドですね、自分たちのまち自慢みたいな形につながっていくと思っていますし、あるいは、こういうことを一生懸命やることによって、将来の自分の職業として、こういうものに関連したものをやってみたいというふうに思うことも考えられますので、そういう意味でいろんな興味を引くようなコンテストになると思っておりますので、たくさんのいろんな分野での波及効果というものが考えられるのではないかなと思っております。

【記者】

【たかまつマインクラフトまちなみデザインコンテスト】

コンテスト作品を今後のまちづくりに反映させる考えは

【市長】

審査をした上で優秀賞等が決まるわけですがけれども、現実的なものを選ぶのか、本当に夢があってなかなか難しいものを選ぶのか、それにもよりますけれども、実際こんなことができたらいいなというのが出てくれば、現実のまちづくりにも応用できるように十分検討していくことは考えられることだと思います。

【記者】

医療費無償化を高校生まで引き上げた理由は

【市長】

少子化対策ということで国全体の喫緊の課題になっているかと思いますが、やはり子育ての1つの課題として、子育ての経済的負担、特に医療費なんか突発的に子どもが病気になった時に医療費がかなりかかって経済的負担が生じるということもあって、子育て環境をよくするためにはその辺の負担をどうにか軽減できないかということで、乳幼児医療費の負担軽減、無料化ということから始まっ

て、だんだん年齢が引き上げてきて、本市の場合令和2年度には中学生まで無料化、入院通院共に無料化をしてきたところでございますが、この度県の方で、県全体の子育て支援枠組みの中で、県都が小学校3年生まで所得制限なしで無料化するという事に踏み切られましたので、その分財源が高松市の場合には軽減されて浮いてくるということでございまして、それを使って高松市として上乘せで高校生まで無料化にしようということで、今回、私の選挙で公約とさせていただき、この前の議会で条例案も可決いただいて、8月から無料化にするということにしたというものでございます。

要は、少子化対策の1つの決め手として、子育ての経済的負担の軽減、特に医療費というのは突発的にかかって、非常に大きなものになるということでございますので、そこを軽減しようということでやらさせていただきました。県下の市町もほぼ横並びでそろって、これで8月からはすべての市町において、香川県の場合は、こども医療費が高校生まで無料化になるという状況になるかなと。県が主導してやっていただいたおかげかなと思っております。

**【記者】**

子ども医療費の無償化は、国が主導で行うべきという意見もあるが、市長の考えは

**【市長】**

出生数が年間80万人を切って、77万人になるということで、非常に厳しい状況で、少子化という局面は厳しい状況かと思っております。

こういう時に思い切った少子化対策というのを国に一律に求めていきたいということで、特に医療費なんかは日本の場合これだけ少子化になっているので対策として、どこまでというのはいろいろ議論があらうかと思っておりますが、例えば小学生までは国が、わが国は医療費無料化するんだよといったような形で、いわば新しいナショナルミニマムと言っていますが、そういう形で思い切った策として医療費の無料化というのを国で一律的にすべきと市長会等を通じて主張しているところでございます。

【記者】

県内の全市町で高校生まで医療費が無償化されることになったが、他の市町と差別化して人口を増やす考えはあるか

【市長】

少子化対策なり、子ども子育て対策は色々な策があろうかと思っておりますが、1つ気をつけておかなければならないのは、先ほど言いましたように、基本的な少子化対策は国全体でやるべきだと思います。市長会でも議論になっていますが、財源があるところとないところで、子どもの引っ張り合いみたいなことがあってはならないと。格差があって、財源があるところは手厚くなって、子育て対策を十分にやるけれど、財源がないところはやれないという形で、そういう引っ張り合いをすることになってはならないというふうに思っておりますので、そういう意味ではある程度、市町ある程度足並みをそろえてやるということは私は望ましい方向だと思っております。

【記者】

【G7香川・高松都市大臣会合】

会合を通して市としてどのような都市づくりをしていきたいか

【市長】

今回の都市大臣会合のテーマというのが、持続可能性のある都市の発展における協働という難しいテーマかと思っております。特に持続可能性というのは、サステナブル、サステナビリティとよく言われますが、じゃあどういふ点がサステナブルなんだと、いろんな局面があろうかと思いますが、中心的なテーマとして言われているのが脱炭素、地球環境の問題、これについて持続可能な形を持っていく、要は二酸化炭素の排出をいかに抑えていくか、都市経営の中いかに抑えていくかということが問題であるということ。それからデジタル化を用いて、スマートシティ、デジタル化を推進しながら都市を効率的に運営していく、それによって持続可能な都市づくりをしていくという問題。それから大きな災害が頻発しておりますので、そういう災害からの回復力、いわゆるレジリエンスといっ

たことも1つの大きなテーマだと聞いておりますけれども、災害が起こった場合の回復力をいかに図っていくのか、そういう問題は全て都市の問題に集約されるというのが昨年のドイツで行われた、第1回の都市大臣会合で言われていた議論でございます。それを今回高松での会合で引き継ぐということになりますので、その辺についてしっかりとした議論がなされると思いますが、それを受けて、高松市のまちづくりにとりましても、それぞれ重要なテーマでございますので、その議論の方向性、結論あたりを高松のまちづくりにも生かしていければと思っております。

【記者】

【G7香川・高松都市大臣会合】

今後のまちづくりの具体的な目標は

【市長】

この前6月3日に香川大学の学生を交えて、G7の各国出身者の皆さんと学生サミットが行われましたが、今の項目等に従って議論が行われましたが、特にそこで重点的に出されたのが公共交通の充実、活用ということでした。そのような公共交通の充実、活用というのを諸外国の例を基にしながら、高松でもぜひこうありたいというような提言もまとめられておりますので、その提言が都市大臣会合の主催であります齋藤国土交通大臣にも提出されるという話でございますので、そういうのに基づいて、高松市としても具体的な施策として都市問題に対応してまいりたいと思っております。

【記者】

【G7香川・高松都市大臣会合】

都市問題をどのように解決していくのか

【市長】

脱炭素が叫ばれながら、なかなか二酸化炭素の排出削減というものに繋がるような大きな効果的な施策は十分にできていないと思っておりますし、基本的には

公共交通の問題が出ましたが、まだまだ車社会というのが改まってない、この車社会を公共交通の方に移行して行って、脱炭素の方向性をもう少し明確に出していかなければならないというふうに思っておりますし、災害につきましても、どうしても気候変動の問題が十分に収まらないということで災害が多発化しかねない、多発化した場合でもそれをどうにか減災という形で被害を少なくするような対策といったようなものも、もっともっと取っていかねばならないと思っています。

そのような形でG7の議論を基にしながら、高松市としてもきちっと議論をして、まちづくりに生かしていきたいと思っています。

【記者】

【マイナンバー誤登録】

市で新たなトラブルは確認されていないのか

【市長】

全国的な話ですが、受取口座が本人ではなく家族や同居人の名義の口座に登録したというのが全国で13万件あったというような点検結果が公表されています。これもトラブルの1つかと思っていますが、あくまで本人名義の口座というのが原則でございますので、この辺につきまして再発防止に向けましたチェック体制やシステムの構築は国で取り組まれていますので、早急に取り組んでいただいて、その指示を基に今後再発防止ということで考えていきたいと思っています。

【記者】

【マイナンバー誤登録】

市として独自に調査する予定はあるのか

【市長】

今のところ国の指示を待っていますけれども、それ以上のチェックというのはやっておりません。

そういうどういうトラブルが発生しているかという新たな情報がございませんので、国の指示を受けてやっていくことになろうかと思えます。

【記者】

【マイナンバー誤登録】

国の指示を待ってから調査を行っていくのか

【市長】

新たな調査をする必要があるか、ですね。今のところは先ほど言いました家族名義について13万件あったという報告がなされて、今後そのようなことがないように指導してほしいというようなことで聞いております。

【記者】

【マイナンバー誤登録】

全国的にトラブルが相次いでいるが、どのようにマイナンバーカードの普及を進めていくのか

【市長】

マイナンバーカード自体はこれからの社会活動をしていく上で必要な制度であるということで、本市としても鋭意国の指導等に従って進めてきたところでございます。それは今後とも変わらないところです。

今回のトラブルについても2件についても人為的トラブルでございますし、家族名義というのも人為的なミスでございますので、きちっとチェックをすれば再発防止可能であるということでございますから、それはこれまで通り手順に従って間違いなきように徹底していくことが一番大事なのかなと思っております。

【記者】

【マイナンバー誤登録】

委託事業者の変更や人員増加の考えは

【市長】

手順の徹底、適正な手続きを再度確認しながら行うように、委託業者に指示をいたしました。先ほども言いましたが全国的な問題で、若干人為的なミスということもございますので、そこは徹底していただき、こういうことが再発しないように注意していただきたいと思います。

【記者】

【マイナンバー誤登録】

去年発生した事案が今年になって公表されたが、それについてどう考えているのか

【市長】

昨年起こったわけですが、人為的ミスですので、間違っていましたということをご本人に説明、謝罪をし、迅速に訂正をして対応を行ったということでございます。市役所内部におきましても、一応インシデント報告ということで、間違いがありましたという報告がなされ、適切な事務処理が行われたということでございます。デジタル庁で全国調査をやって公表をするというタイミングに合わせて、今回公表したいということで、その辺に市の手続きとして誤りはなかったと思っています。

【記者】

【マイナンバー誤登録】

発生当時、市長は把握していたのか

【市長】

ここまで具体的なトラブルが2件ありましたというのは把握していませんが、そういのがありましたという報告はあがったということでございます。

【記者】

チャットGPTの活用に向けた検討状況は

【市長】

チャットGPTはあいさつ文などに活用しようと思ったら非常に便利なツールなんだと、やってみたというか、他の人がやっているのを見ながら思ったところでございますが、一方で利用者が入力した情報についてもAIがディープラーニングして学習していくので、他の利用者の回答に利用されると。それがひょっと個人情報、機密情報だったら流出が懸念されるということで課題もあるということでございますが、それについてどう考えるかということで、かなり安全な形で活用できるのであれば業務の効率化という面からも活用できないかという気持ちはございます。

現在、本市におきましては担当部署におきまして、業務における有効な活用策、また活用する上での課題、その解決方法といったような形を検討している状況です。

【記者】

【マイナンバー誤登録】

発生当時、市長に報告はなかったのか

【市長】

市の内部でインシデント報告、こういった事故がありました、という報告はなされております。市長のメモまできたかどうかは確かめられておりませんけれども。どこまであがったかな、インシデント報告。

【デジタル戦略課】

インシデントはしてはしておりますが、市長までのメモはその当時はされていません。

【市長】

こういうのがありましたという報告、事務処理はされています。私までは報告ないですね。

【記者】

【マイナンバー誤登録】

発生時点で市長まで報告の上、適切な対策を講じていれば2回目のミスは生じなかったのではないかと

【市長】

そういうのが起きたということであがって、今後そういうことがないようにチェック体制をきちっとするというような処理は部内では行われたと思っております。ただ、それが徹底できてなくてもう1件起こってしまったということかと思いますが、全体の中の2件ということでございますので、それほど言ったら悪いですが、問題視はすべきだと思っておりますし、再発防止は徹底すべきだと思っておりますが、一応そこで2件で止まっているというところで、それなりの対応はできていたのではないかと判断しています。

【記者】

【マイナンバー誤登録】

8月と9月に同じミスが発生したことは、個人情報漏洩に関する認識が甘かったのではないかと

【市長】

2件でも起こったということに関しては、申し訳なくお詫び申し上げたいと存じます。2度とないようにきちっと徹底するということが大事かなと思っております。

全国で見ても数件ずつは起こっているところが多いようですので、確かに全職員、あるいは委託業者がもう少しきちっと徹底していれば防げたかもしれないと思っております。今後このようなことがないようにしっかりとやっていきたいと思っております。

【市長】

【マイナンバー誤登録】

国に対しての要望は

【市長】

マイナンバーに関しては既に申請件数が8割を超える形で、かなり初期に想定していた全国民にという、全員ではないにしてもある程度普及は図られているのかなと思っています。そういう上で、これを有効に使っていくという上で、最も大事なのが、安全に個人情報が洩れることのないような万全の体制で使用していく、活用していくことが大事かと思っていますので、その辺の枠組みを国民が納得するような形で、こういう風な措置をこういう風にとっているから安全ですよ、と、個人情報が洩れることはありませんよ、といったような説明周知を徹底していただきたい。それを国にはお願いしたいと思います。

【市長】

【マイナンバー誤登録】

発生当時、市長まで報告はなかったのか

【市長】

具体的な内容で、こういうトラブルがありましたというインシデント報告はありましたが、私まではあがってきてなかったということです。